

刊 夕 目 入

糖 毛 支 日 純 天 晒 生 綿 葛 石 砂 食 小
 粉 梳 那 本 子 竺 金 市 棧 棧 油 糖 鹽 粉
 物 布 縐 縐 布 類 類 類 類 類 類 類 類

七七八〇三〇二八二八四九四二二
七〇〇一四〇四四八九二一二七

警務總監
長代理と
爲したる
を開催亥
して實務
製紙
にては管
日より一

開催 京

に府廳に
豫算を遠
は更に設
べしと
東拓平衆
現在の事
居るを以

へき選病全
附せしが再
しを以て附
新に入封

魚類に在り

現今殆ど當業者間に抱き居れるにカレるのみ
 見のみの

家庭重なる
宝に
なる
に
御
安

日本金銀三〇〇
 郵政本社
 定價金一
 日本金銀三〇〇

御茶銘 鑑定價表 (二百目二付)
◎玉露製 ◎煎茶製
寶樹園 拾 匠特製 聚第 二國古
老の梅七 國井六 匠一 割外壺

[illegible]

茶一斤三錢半斤八錢四半五錢
御注文江茶葉茶葉一丁照上候
會高三四以上之鄉江文江縣利地
小包料常店之通指前韓林太盛河
一小包每斤一兩或二兩中受候
用金高以下之通指中受候

振東京六二九三
電話一〇八七
營業所 京都七條東洞院角
製茶 井上六平
問屋

來學生募集 短期速成
一日ヨリ新學期開始ス
夜間教授

朝鮮藥學講習所
電話二〇四三番
は市内藥店にて問合されたし

第一號	金一圓九十錢均
第二號	金二圓五十錢均
第三號	金二圓八十錢均
第四號	金三圓五十錢均

トカーフ製
金五回均一
皮深ゴム及ト
形上靴五十
右の均一靴
る材料、靴
技術を以て
最も

土統として最上
の事を信じて
御注文は正
なる足文
の高低
の御知
たし

土研五錢 引換四十五錢
東京市本橋區東片町九十二

大阪府堺市
肥塚源次郎

高野山



京城本町二丁目
販賣店 佐藤牧太郎
同 本町三丁目



限遺發賣元
肥塚源次郎

醇良清酒



都 白
威 白

特約販賣店 同 本町三丁目 佐藤牧太郎
特約販賣店 明治屋支店

葉山あたり春の風光りて

新宮^{ニイガハ}四皇子^{シコウジ}殿下^{テマ}の奉迎^{ホウエイ}あらせられ

と御共に久方振の御團圓の裡に御晝餐を執らせ給ひし後
りし澄宮殿下と御對顔あり二時三十分東宮殿下には名盛

させ三陛下の奉送を受け給ひ御用邸御退出同五十分返子停車場御發車遊道悉く沼津御用邸に還登あらせられ又朝香東久勳宮兩陛下には三時半發にて東京に御歸還遊ばされたり因に此日東京陛下には朝宮路の御土産品を兩陛下に献上遊ばされたる旨洩承る(重忠)

電球を窃取す―危険な事

鐵鎗百五圓の兵士中毎々街燈の電球を若くはブラケット等を竊取する者多く其被害毎月二十餘箇を數ふるに去る二十四日の夜も亦に東門街に於て右の一個を竊取せる折返巡邏者に發見され該器を棄て逃けたる兵士あり其後は犯人は日増に増加し去る夜も城内教育公所前丁の氏屋敷前

五十年來の復久方東京のびのちのて始

龍虎搏の壯觀は本社特派員特電に見よ
 振りに漸く出現を見るに至つた東京、大阪合併大相撲は愈
 来る十一日初日にて大阪千日前に於て興行する事となり、
 し振りの顔合せは十一日初日東京
 の精銳相生の決心大錦の奮發
 新横綱西の海のあるあり、大關大鰐、朝潮等を首に出羽
 海及び雷門下の精銳又舊を駈へて戦つて殺到せし
 り。これに對抗せる大阪方を見るに今回の合併相撲によつ
 てその眞價を認められ名譽の横綱を授けられ

馬島海峽

午後三時來島海城馬島海岸東側
 神戶市明治運轉株式會社の汽船
 海丸三十五號は、大連より
 肥前料を満載し、神戸に航行の途
 中、潮流の急め針路を誤り、重疊して船
 體が衝突し、船體が破損し、船員
 及び乗客の死傷を蒙り、船體が破損
 した。

錠前やじりまへを捻ねぢぢ切るきるる || 脏前しやうひん

二月十六日午後八時半頃京城旭
 二丁目清田某方家人の不仕に乗じ
 戸の錠前を捻切りて侵入し衣類
 四箇、價八十八圓餘を竊取したる
 あり所、本町警署にて是が犯人檢
 に努めたる結果右は關關遠送獄
 木村生れ當時京城賣金町三丁目
 新町遊廓に流連す
 或は古物屋に賣りて得む
 代金は新町遊廓大器樓の娼妓太
 事新井明子及び器樓の壽事藤原
 つきの兩人に打込み尙盜器品中
 星しき夜物は兩人に與へ大器
 にて日女は兩人に與へ大器
 明し高取調べ付

東京へ出發

瀬江中の天鬼白龍一行中幹部
八日午後商船第十一字和島丸
本上の途に就く筈(門司特電)

道信川郡月川面生れ李永植

三丁目時計商堺屋方にて金張懷し
一個外二點(三十七圓五十錢)を
し同地旭町二丁目の下宿屋花田

て黄金財を御指しを本國へ
取押へらる

逮捕せらるる
に切る 二 贓金八百圓
に流連す

の兩人に打ち込み尙竊盜品

日夜入り浸りの姿なりしこと判

北昌城郡東倉廩大榆澗商秀結

に於て切り出したるの木村鑑蔵(あきむらみさね)爲す所、二三月三日午後四時、同鑑蔵(あきむらみさね)數も籠分多し。その中から百戸以上を出入院前和平の日稱吉俊基(よしのきちかすね)が所有する者を探してみると、餘好三郎氏(あまのりやう)の

◆四百戸を筆頭

盗み出す處を京城北

引取人が無い 本月一日京
若草町の大火の罹所焼損甚だ
びび込み木炭一俵を抱き去らんとす
座を家人に取押へられ本町署に引
取られたり

御れも百軒以上
ある。小さな客主の定めた家賃に
非常に高いのであると思ふ。恐ろ

横濱本太郎、日韓砲座、百三銃
連長馬、關野大郎、建武會社、縣
吉川廣高の諸氏の持家は

蒲團やら柳行李や

又多分、わが國と同盟の諸國に
對してある心當りの人は、同盟に
照するが宜い。

◆乃至九十錢位の
ところが現在の通り相場である。
貨の率は四五年前に比べると所
つては二割乃至五割、甚だしきは

家^や主^{ぬし}の^の国^{さう}炎^{だん}

家賃が下がった
現在の通り相場

◆家賃を下げた事
は公然とは言はぬけれども、大家でも兼業にやつてる者に言はせる

に投げられた

黎明かみんの光ひかり
家計かけいと没交渉ぼつこうしやう
唯子ただこを産うむ丈ばかり
苦勞くろうを共にする
國良くによしは自分おれに
居ゐること、此これもも從來むづかの朝婦人あさづめに
は一言ひとことの苦勞くろうを並ならべる者ものも無なかつた

差がない斯うして成長した

國女が他國へ嫁入
 國つた後はどこで
 國最大原因である
 朝鮮時の中流以上

少し割が落ちた。

イの一番小

三

◆借手さへあれば
千圓のものなら二十圓十五圓位で
こん／＼貸してしまふ。客家にして
はいて建具家具を持出されたり、家
傷なつたりするよりは留守居代
に入れてしまふ。だから今の京城
の可なり風も、

録 登

衛生堂
胃弱症の特効劑

大入居前

と案外安い家が見附かる。

家賃の下つてゐるのは事はれない
 事實で、借家する場合には振合ひ
 が高いと思へば、どんなに値切つて
 いくと餘程な家主でない限り大抵の

○飲み過ぎ ○食過ぎ ○消化不良 ○りうゐん
 ○胸の痞へ ○胸の痛み ○慢性胃弱諸症に妙
 本舗 大阪江戶屈 者同社耶義房
 大坂江戶屈 各薬店にあり

◆家主が最近寄合

に相識したさうである。それがま
今日は、其體の現はれてはゐな
けれど、何れ組合の様なものか

▲タンクステン 鐵山業者にして責任ある方へは代金前渡し可仕候
▲タンクスステン 夫山所有者へは替御引渡の御契約にて諸工具及び人
夫金等々の立替の御相談可應候
▲タンクスステン 鑛石御拂渡の契約にて鑛山機械備付御相談可應候
▲タンクスステン に就き御用の方へは鑛石小塊見本御送付の上御相談致下

も女は全く之れと没交渉である

の客は何程の客來て。日何程の前
 を爲て何程の損益の有るか云云。
 如きは全く女の關知する處のもの
 はない又之れを
 關知する者の
 關知（ハム）興へ

山岸天佑堂 染品部
 器機部
 電話 二二六
 二二七
 二二八
 二二九

總切町 津波連 市内航
 地方通店販賣致政局
 東京支店自設局用

山岸天佑堂 染品部
 器機部
 電話 二二六
 二二七
 二二八
 二二九

これでも未だ曾て朝鮮婦人は不

漏さなかつた内房生活に甘んじて
社會的の生活を

▲タンクスステン 鑛石百分の拾より七十三迄含有の品高價現金買仕候
 ▲タンクスステン 鑛山業者にして責任ある方へは代金前渡し可仕候
 ▲タンクスステン 鑛山所有者へは探鑛御引渡の御契約にて諸工具及び人
 ▲タンクスステン 夫賃金等の立替の御相談に可應候
 ▲タンクスステン 鑛石御相渡の契約にて鑛山機械備付け御相談に可應候
 ▲タンクスステン に就き御用の方へ鑛石小塊見本御送付の上御相談被下
 度候
 京城真洞二十五番地(電話二九三八番)
 ジョーリアーレン 商會
 (支店所在地 忠清北道清州)

內科
小兒科
醫學士 森 定吉
電話二六二三番

京城本町二丁目（瓦斯會社向側）

芙蓉 醫學士 森 定吉

拜啓 小生義今般東京醫科大學附屬醫院を辭し爾
今左記に住居致候間此段謹告仕候也

三月一日 本町二丁目 醫學士 森 定吉

郷友諸君

其他鑛
八申候
御大師前
湊
二一六二四番

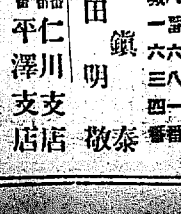
リヤは千九百十六年より總ての年代の谷類を網羅すは、大菊、中菊中の模花新花を擧て蒐集すカラ、カーネーション、連は園藝家の跡でなものを集むは、咲最大、模花の正體

見 醫 院
士 多々見五郎
電話九四〇番

種各ニロトシ種
一ダイナ引布矢三
元賣發鮮朝
店支城京藤
(番一七一話電)町金黃

京城黃金町
三巴商會
電話三八五號
京城南大門外
大三商會
電話三一九號

田 鎮 明 敬 泰



田 鎮 明 敬 泰

京城黃金町
三巴商會
電話三八五號
京城南大門外
大三商會
電話三一九號

種各ニロトシ種
一ダイナ引布矢三
元賣發鮮朝
店支城京藤
(番一七一話電)町金黃

見 醫 院
士 多々見五郎
電話九四〇番

リヤは千九百十六年より總ての年代の谷類を網羅す
は、大菊、中菊中の模花新花を擧て蒐集す
カラ、カーネーション、連は園藝家の跡でな
ものを集む
顔は丸咲最大輪、変
咲の新聞名花の正體

其他鑛
八申候
御大師前
湊
二一六二四番

眞販賣
小三郎

十八日	十一日
廿二日	十三日
九日	十四日
廿五日	十五日
九日	十六日
廿八日	十七日

<p>白粉</p> <p>し ろ い</p> <p>元 賣 發 店商屋見丸</p>		<p>錦 本 園蝶胡東伊</p>			
<p>から よく せう</p>		<p>てす すが せう</p>			
<p>金七十五錢</p>		<p>(79)</p>			
<p>廣興隆由三月九日 木浦發</p>					
<p>公洲九 三月十二日 木浦發</p>					
<p>公洲九 三月十四日 木浦發</p>					
<p>宗信九 三月八日 仁川發</p>					
<p>江原九 三月十七日 仁川發</p>					
<p>龍水九 三月八日 仁川發</p>					
<p>各港經南木浦行</p>					
<p>錦江九 每日午前 仁川發</p>					
<p>平安九 三月十四日 群山發</p>					
<p>在嶺大嶺山木浦間 若松發</p>					
<p>仁川共同汽船公司</p>					
<p>大連行</p>					
<p>三月 月 日後二時入</p>					
<p>三月 月 日前九時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					
<p>三月 月 午前八時出</p>					
<p>三月 月 午後九時出</p>					

京城雜筆
山縣生

この感を深くせざるを得ざりき
日本語を學ぶ極めて速なる上

●ワシントンに傳報の目録よりイテ
●英國の金を投じて定まつた世界
●國が巨額の金を投じて定まつた世界
●唯一の勝つる統式の要領なれば如何
●に獨斷が勇進にして猛烈に攻撃する
●もの之を攻陥すること強くは容易の
●業にあらず、されば其の激戦は實に
●想像以上ならん。

●佛國則より云ふも皆此の要領が
●要を察するを得ざりき。

●歐洲の大戦により記者も亦一人の
●親友を亡へし。其親友とは過日佛國
●の戰に於て名譽の戦死を遂げたる
●英國陸軍中佐、コールロップ氏にし
●て、昨日の紙上、我陸軍大學校に寄
●し携へたる軍刀を、我陸軍大學校に寄
●贈したるの東電を讀み、記者は落
●淚せざるを得ざりき。

●記者の氏に對する感想の全然
●然るを、記者の氏に對する感想の全然

獨軍の行動に對する。記者のイオナタ國の友人に英國
とありては國家の破滅となる可き
危急存亡の別目なればヨモヤ之れを
敵手に渡す如きことなる可し
○或る黒人筋の人は此の攻勢を以て
獨軍が大勢白耳義方面より突破せん
とする爲めの牽制運動ならんと揣摩
し居れども其の攻勢の如何にも大要
名譽の爲め一の善き事を爲したる
とす。記者は我國の花々しき最後
を遂げたり。勇者

●獨逸皇太子は世界に知られて居るよりも、蒙るべき人物にして其の軍事的天才は父皇にも優る所あり獨逸の總指揮權は此の皇太子が掌握し居ると云ふも殆んど過言にあらざる。

○或曰日本料理を氏に饗したる節、誤傳ひ發着の真據にわたなければ、記者は自指子以來の花柳史を略説し、蒙者と雖も操縦する堅固なる者ある事を氏に語り、記者は其内江戸子代に於ける理想の蒙者を描寫したる次第にして、今日の蒙者の實狀を語れば其の如き味と共に住まれて

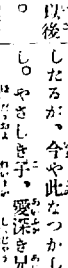
將軍多くは反對なりし由なれども、皇太子の必勝の戰略によつて遂に之れを斷行するに至りたりと、其れ或は然らん。

○敵も昨方も埒攻不落と云ふ要要を攻撃して多數の人的犠牲を拂ふは甚だ無鐵砲のやうなれども此の奇道は是れしが、日露戰後我國が世界の主權として惡者に脱ぎ及ばせる一文表

△兵が國後間にも倫敦の有力なる一新聞に於て、或宣教師が我國に於ける男女道德の腐敗を攻撃し、其熱心なる讀者の嘆美家となれり。

○我胸蓋がかり我眼曇る。

○やさしき子、愛深き兄を亡したるが、今や此なつかしき人たる部屋及び今味的心情を察す



あり、されば少壯血氣にして且つ兵衛に老けたる皇太子が其の胸中に勝算ありて此の總攻撃を主張したること亦決して故なきにあらず。斯くして吾輩は此の攻撃を以て牽制運動にあらずと斷定す。

歐戰戰爭に對する外國電報は常に意を盡きたりし扱ひにて、此問題には多大の問題を喚び起して、倫敦の文壇は一時此問題の辯論を以て賑したり。此時最も熱心に我國を辯護し、強者を理想にして其の國策に非ざる事を主張したるはエドワーズ氏なり。

次に京元線に移らむ。長蛇煙は京元線を發して進むや、龍山にて入往十里を過ぎり會同驛に到り、記者は之を見て微笑を禁ざる能はず。記者は驚かざるも其の

東拓理事 村田俊六

三、京元線

漢水悠悠々々

に於て七八分の勝利を占め居るは事實に於ける事實なり、若し今國の主要な攻撃が果して獨逸が西歐戰場の勝敗を以て一氣に全戰局の勝敗を決せんと欲する覺悟なりとせば獨逸は如何に多大の犠牲を拂ふも之れを攻めざるに努む可しと

▲記者がコーバルスロップ中佐と親交を計するに至りしは、此エドワーズ氏の紹介に因りし也。中佐は日露戰役間もなく露學士官として來朝し、其頃は大本營なりしが氏が斜陽に映さるるの夕、惜別中もの

日本書生現娘なり、漢江君々々天流り流れ、東の方途に南渡

望む。堤柳園館びて野牛眠り、蝶蝶蝶、江村柔條線深うして、石上繁葉を翫て白流舟流まり、款乃燈舟を渡るの際、

の聲、軍艦は七つ影、夜に、

に然く信するも能はざるなり、(三月四)
 ▲深く交るに及んで記者は氏が軍人
 於ては輸出すべき機密の権きを有
 ることを望めども、吾輩は未だ轉々
 んことを望めども、其の然ら
 めの都數に於て貴公子の如く
 記者を訪はるるや、記者は其風
 采を諒して、
 ゴートツン氏の給々たるを
 携へてあるに、此地秀然なり、
 散策に適すべきなり、
 北漢山麓を過り、
 東山川
 一寄勝なり、

九日朝刊
(タ刊と合せ二十頁)

[illegible]

ある。其の邊境は、田賦あるも廣かりし、其趣き議會の靈意に似たるものあり。鑛原は有名なる小御前なり此處すべて赤ひたる平原なり。汽車開通前にあては、手を築るも殆んど益なしとせんも、今日なほ少し之を利用するの策なきにあらざるか。小石散布して之を基すに可からずと聞く。余此地を知悉せずとも是れ重要問題にして、那須野の如き

○越前國津幡縣松本村(一)舟橋つもと
日本武蔵野といふ二つの水脈が合流する所である。

は杉子腰が打たれたので作休されたと歸藩し、腰に負傷せられたと言ふ大騒ぎ。松本の任務で連絡船に依り先發した岡高七郎氏が二時間も後から到着したのを驚愕が加じたらうこと同然矣と負責完備の一瞬に長板を架けた上今日から想へに所望隨世の出来上つた今日から想へに所望隨世の出来

○四月二年、月四日醫館の陣向は醒めざるに於て、俄然南北總督の官報號外は發布せられた。文交自官千乘萬兩七日皇院の警を續立て、大邸に向ふ、其れから釜山馬山に廻つて見さ

今日の状態を化せしめた。今、
弓裔が事
鐵原の大撃なる月井里は即ち弓裔の都宮ありし所に於て、今た其の面影を慰ふことを得、此邊南鐵原より北福津まで、一帯の原野にして、今に跡るまで殆ど荒蕪なり。小

金に暮れる。今接連と急電を手にて、歐羅巴の國々へ知らせたる。明日は英蘭定款の條が續く。立憲つたとの事である。憲兵に力をつけ、治まらぬ中、少佐の職務に任ぜられ、今に至るとな得たり。續いて密の通信に行れ、居留民衛隊の施行され法務院に附設し、隨處我輩も派遣し向かふとす。

○五月五日、早稲田路を汽車で、兩艦艇、聖旨に依り廻航する、此間、兩艦艇の贈答があつて兩國帝室の親善は遺憾なく表明せられた。艦上総監は韓皇に向つて世界の大勢を詳述し、韓國の日本に倚る外なきことを細説する、殊に公が七旬近き老體を寒風に晒し時は屋外の露臺に立つ

川流れて南より北るものありし可に誤。誤仲々李長密一ノバートの
裔は江原道の一隅に居をトせしは奇。浦鹽を寄て海に寄行の事に及ぶと
なるやう思ひしことありしも、其公は制する様な口吻で君等が驕る處
地を見るに及び首肯せらるゝところ。では、靜かに事局の進展を以て
子にたり。君翁は新羅の義安王の庶との事である。果然此後の提督に李
子にして、祝賀して付となりし。和會の拒絶に合つて失敗に歸した
頗る膽氣あり。常に身主孫を以て立。日本公使論は當然として勃發した
能はざるを畏、軍官の義安王と。日本公使論は當然として勃發した
加の助統親王の事がある。同王、日本公使論は當然として勃發した
加の助統親王の事がある。同王、日本公使論は當然として勃發した

るものに倣ひ、地を順じ自ら將軍と稱し、後王と稱へ、國號を摩撻訶と爲す。都を此處に築め、百官有志の職を設け、國號を更に茲郡と名けり一時威を振ひしが、性驕奢を成び、交佛に惑ひ、自ら彌勒尊と稱し、寧ろ狂に近く、臣下を遇する苛酷なるを忍み、遂に其の心を更け、寺、道場、僧徒、僧尼を毀壞せしむる事あり、大事件發生か爲す。

○嘉秋十月二十四日伊藤公遣郵の因報は滿洲の北天より傳へらるゝ、此日曾祖統親は仁川に在つて時しも揮

將たる王建の爲めに滅はされたり。王建に攻めらるゝや、平康の北に通れ、兎を火中に捨て、巖窟に遁れ、平安に到り遂に農民の殺すところとなりしと計ふ。司箭の王たしこ凡そ十七年、俗も我が醍醐の朝に當る。司箭を滅ぼして王建は即ち三王なり。王建は兵二部が弱かり、我々が守衛國を侵襲するが爲め、大内府・南大門内・侍衛隊が組織する。部の兵士は合利の器用は朝野の間へ湧出する。其に筆を投じて浩歌し暗疾に咽んだ勿論内地之言は朝鮮と言はず上下均しく深怒感に打たれ此兒復を悲まれ者はなかつた。左なきだに成熟せる天下の人心は刺戟せられて日韓合併の問題は朝野の間へ湧出する。其大勢は滔々乎として洪水の如

[illegible]

○忘れぬは明治三十九年の三月二日
一世統御伊藤公の一行を載せた千石一両であらう

言ふ迄なく日朝官街断路、
奉迎に日朝も亦た足らなく、御召儀
仁川に著き御邸は大陸の土を踏ま
れた一刹那御奉迎者の服裡には何
とも言はれぬ感じがした、蓋し殿下
御堂前に泊り舟あり月臨

柳風
紅

[illegible][illegible]

龍口のの風佐渡雪の姉崎
 長久の柳屋お藤臨風

武士の修養……勞賃一圓
春意微動……畔柳都太郎
獨不見
不兒
樗牛賞金
大正五年
前刊



 國產白檀油

 GOSAL

 發賣元

 大阪山外中津町

 三友製藥合名會社

 大阪道修町

 武田長兵衛



 東京市本町
 小西新兵衛

木村禾 開始

規則書及び見本希望者は郵券二錢添へ


帝國工業精製局

講工學士橋先生○
師工學士大河內先生○
先生文學士栗原先生○
理學士日吉先生○
文學博士加藤先生○
工學士杉村先生○
工學士山井口先生○
工學士蘆田先生○
工學士松本先生○
工學士志村先生○

三時
 營業案内
 三時

堅牢にして優美なる高價品御希望の方は京都本馬場一軒敷買元小倉佛具店へ寄託注文を乞ふ
京都本馬場一軒敷買元小倉佛具店
山崎町四丁目二番
電話一五七二番

金銀金
各種金
銀銅
銀線銀線
製
作
販
賣


 推看至第一二二九
 眼鏡專門
 宮川大學堂
 醫學機器輸入製造
 理化機器輸入製造
 (義手足)
 度量衡器販賣特許
 御商
 京城大和商會

滿
鮮
東京 隅田川
鴨屋本舖
賣物味噌問屋
電話 五八九番



京成
利用
乗
自働車

片道賃金四割
京城發 午前七時
五川發 午後二時
京城水標橋五十番
春自働車

票價
三三八

恩給立替金
貸金
博多屋本店
電話 二二三番
元祖
東帝
講習

生募集
録
達るべし
甘町永松區田神市京
業工國
七二一 東口部 (六〇三五) 下
京座巻 (五八一七) 谷

工學士牧野先生
工學士内九
番地一
院學
〇七二

獨逸問牒の活躍

資金三千萬圓

【本報東京二十三日電】獨逸問牒の活躍は、資金三千萬圓の投入により、獨逸の海外活動に大きな影響を及ぼしている。獨逸問牒は、獨逸の海外活動に大きな影響を及ぼしている。獨逸問牒は、獨逸の海外活動に大きな影響を及ぼしている。

七三分の相撲は取れぬ

【本報東京二十三日電】七三分の相撲は、取れぬ。七三分の相撲は、取れぬ。七三分の相撲は、取れぬ。

黒木將軍危篤

【本報東京二十三日電】黒木將軍は、危篤の状態で、二十三日午後二時、東京の自宅で歿した。黒木將軍は、危篤の状態で、二十三日午後二時、東京の自宅で歿した。

赤ん坊の食糧

【本報東京二十三日電】赤ん坊の食糧は、不足している。赤ん坊の食糧は、不足している。赤ん坊の食糧は、不足している。

三百年前

【本報東京二十三日電】三百年前は、江戸時代である。三百年前は、江戸時代である。三百年前は、江戸時代である。

立派な冷蔵庫

【本報東京二十三日電】立派な冷蔵庫は、必要である。立派な冷蔵庫は、必要である。立派な冷蔵庫は、必要である。

【本報東京二十三日電】立派な冷蔵庫は、必要である。立派な冷蔵庫は、必要である。立派な冷蔵庫は、必要である。



窓飾り

【本報東京二十三日電】窓飾りは、必要である。窓飾りは、必要である。窓飾りは、必要である。

茶舗

【本報東京二十三日電】茶舗は、必要である。茶舗は、必要である。茶舗は、必要である。

風呂

【本報東京二十三日電】風呂は、必要である。風呂は、必要である。風呂は、必要である。

大いなる盛り

【本報東京二十三日電】大いなる盛りは、必要である。大いなる盛りは、必要である。大いなる盛りは、必要である。

上方流が多く此處

【本報東京二十三日電】上方流は、多く此處に存在する。上方流は、多く此處に存在する。上方流は、多く此處に存在する。

責任を以て受け渡

【本報東京二十三日電】責任を以て受け渡すは、必要である。責任を以て受け渡すは、必要である。責任を以て受け渡すは、必要である。

【本報東京二十三日電】責任を以て受け渡すは、必要である。責任を以て受け渡すは、必要である。責任を以て受け渡すは、必要である。



魚類の買出で素人

【本報東京二十三日電】魚類の買出で素人は、必要である。魚類の買出で素人は、必要である。魚類の買出で素人は、必要である。

肺病治療

【本報東京二十三日電】肺病治療は、必要である。肺病治療は、必要である。肺病治療は、必要である。

清き處女の友情

【本報東京二十三日電】清き處女の友情は、必要である。清き處女の友情は、必要である。清き處女の友情は、必要である。

京日案内

【本報東京二十三日電】京日案内は、必要である。京日案内は、必要である。京日案内は、必要である。

新刊書御案内

【本報東京二十三日電】新刊書御案内は、必要である。新刊書御案内は、必要である。新刊書御案内は、必要である。

学校焼失

【本報東京二十三日電】学校焼失は、必要である。学校焼失は、必要である。学校焼失は、必要である。

自然の黒髪

【本報東京二十三日電】自然の黒髪は、必要である。自然の黒髪は、必要である。自然の黒髪は、必要である。

スィナ

【本報東京二十三日電】スィナは、必要である。スィナは、必要である。スィナは、必要である。

十圓五十三錢
十圓五十五錢
ヨシエトシ 方下 水桶の 花蓋

朝鮮主要鑛物の概況―金鑛業の將來と採金方法―鐵鑛業勃興の機運至る

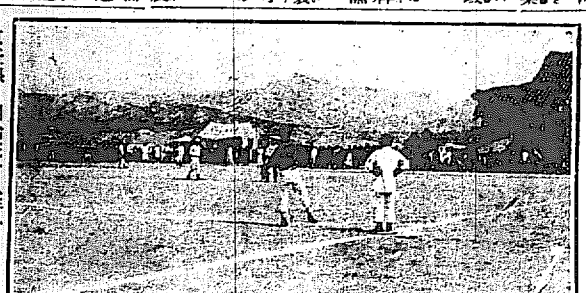
金鑛業

朝鮮に於て金の豐饒なるは古くより
 傳せらるゝところにして現時の
 年斥額一千萬圓を算せるの

盛に輕便鐵道を敷設せよ

鮮鐵の一新時期

大正四年を以て朝鮮鐵道の一千哩達した事は或は朝鮮鐵道に一エボクを對するものであると見てもいい。朝鮮鐵道の過去には幾多の曲折があった。明治三十二年九月京仁鐵道（時任川爲梁津間）開通以來



參京義の直通線路である
京釜京義兩線が日露戰雲暗濛たり
明治三十七八年の交に於て速成せと
れし事は世の熟知する所今更言ふ
迄もない即ち朝鮮鐵道が此軍隊乃ち
軍需品輸送の關係から速成に次ぐに
速成を以てし今日に到つて居る事は
考へなければならぬ然して其の條
に出來た線路は各地産業開發の必要
に應じて敷設せられたものであると
謂つていゝ更に今後の朝鮮鐵道如何
を考ふる時に於ては直に此關係に據
つて敷設せられるものと見ねばなら
ない
元來鐵道は軍事的の必要に應ずるが
如きは別問題として地方産業開發の
爲とあれば其調査を充分にするは勿
論開通後の收支をも深く考へなければ
ならない當初は損失を蒙つても之を

松林坪	七、八
松林坪	同上
康慶分岐	同上
水南岐	同上
平壤市街	同上
榮興里	同上
黃得里	同上
孟中里	同上
東倉里	同上
雲山西麓	同上
新安州	同上
合川	同上
計	同上
即也	同上
百里	同上
項間	同上
十五哩	同上
社以對	同上
社以對	同上
到らぬ	同上
に於ける	同上
鐵道の初興	同上

右の順序に據つて大正四年八月迄

事は無い譯である
 輕鐵時代到來
 期して敷設せなければならぬ場合
 もあるかも知れない然し要するに孰
 れからも全然損失すべまを敢て爲す
 事は無い譯である

比較的、小額の經費を以て交通上の便
利を圖るには、輕鐵の外になく、本鐵道
の延長は、上述の如く、從來の速度に進
める事難きを以て、交通上輕便鐵道を
適當する地方に於ては、民官有志の警
つて之が計畫に當り、以て半島交通の
發達を促進せられん事を望むのみで

唯陛下聖訓、其過十之九也。臣竊謂天下之事無一不由乎上而決於下者也。今者國家之計、雖曰以富強爲主、然必資乎民力。民力之興廢、全視乎官制之善惡。官制之善惡、又繫乎用人之得不得人。用人之得不得人、則在於考察之實否。考察之實否、則在於調查之進退。臣竊謂今日之急務、莫過於調查。調查之要、莫先於地方自治。地方自治之成否、則在於經費之籌措。經費之籌措、則在於稅收之增減。稅收之增減、則在於人口之衆寡。人口之衆寡、則在於教育之普及。教育之普及、則在於學校之設立。學校之設立、則在於師範之培養。師範之培養、則在於學費之補助。學費之補助、則在於貧民之救濟。貧民之救濟、則在於賑恤之施設。賑恤之施設、則在於倉庫之儲蓄。倉庫之儲蓄、則在於蠶桑之勸導。蠶桑之勸導、則在於農具之改良。農具之改良、則在於水利之修築。水利之修築、則在於墾闢之獎勵。墾闢之獎勵、則在於荒地之開墾。荒地之開墾、則在於移民之招徠。移民之招徠、則在於交通之便利。交通之便利、則在於道路之修築。道路之修築、則在於郵政之發達。郵政之發達、則在於電報之設置。電報之設置、則在於電話之安裝。電話之安裝、則在於鐵路之修築。鐵路之修築、則在於輪船之製造。輪船之製造、則在於機器之改良。機器之改良、則在於燃料之節約。燃料之節約、則在於礦產之開發。礦產之開發、則在於冶煉之技術。冶煉之技術、則在於鑄造之工藝。鑄造之工藝、則在於鍛造之方法。鍛造之方法、則在於鍛工之訓練。鍛工之訓練、則在於鍛廠之建設。鍛廠之建設、則在於鍛工之工資。鍛工之工資、則在於鍛工之福利。鍛工之福利、則在於鍛工之保險。鍛工之保險、則在於鍛工之養老。鍛工之養老、則在於鍛工之遺孀。鍛工之遺孀、則在於鍛工之孤兒。鍛工之孤兒、則在於鍛工之教育。鍛工之教育、則在於鍛工之就業。鍛工之就業、則在於鍛工之生活。鍛工之生活、則在於鍛工之幸福。鍛工之幸福、則在於鍛工之健康。鍛工之健康、則在於鍛工之長壽。鍛工之長壽、則在於鍛工之傳子。鍛工之傳子、則在於鍛工之傳孫。鍛工之傳孫、則在於鍛工之傳萬世。鍛工之傳萬世、則在於鍛工之永存。鍛工之永存、則在於鍛工之神聖。鍛工之神聖、則在於鍛工之不朽。鍛工之不朽、則在於鍛工之永恒。鍛工之永恒、則在於鍛工之萬古流芳。鍛工之萬古流芳、則在於鍛工之名垂青史。鍛工之名垂青史、則在於鍛工之流芳百世。鍛工之流芳百世、則在於鍛工之永垂不朽。鍛工之永垂不朽、則在於鍛工之萬古流芳。

十年間に於ける我祖主權の重なりたる龍山に於けるスケート大會

祝三千號記念

朝鮮銀行

一、本社 東京日本橋駿河町壹番地

一、**內地各地支店及出張所**

一、主要取扱業務及品名

石炭、コルクス、綿糸、綿布、絹、羊毛織物、米穀、豆粕、糠粕、砂糖、金物、葉煙草、檳寸、木
材、漆器、土器、磁器、皮革、紙、印刷用材料、衛生用品、紙

[illegible]

京城黄金町一丁目
六十四番地

三井物産株式會社 京城支店

二、一手販賣引受

米國
米國
アメリ
ネラル
エ
レク
トリ
ック
會社

米國 ユーエス、ステイールプロダクツ會社

米、大豆、雜穀、大豆粕、人

取扱商品
機械類、電信電話材料、三桧棉布、棉花布、金物類、石炭
平壤鐵業所製煉炭、北海道木材、營林廠木材、燐寸、砂糖、麥粉
バインアップル等

所張出山群

釜山出張所
電話五六五番

所張出川仁
番三六話軍

祝三周年紀念

永登浦

大塚醬油釀造所

電話二〇番

京城林町一四二番

製紙商 下森菊藏商店

電話二九九番

新案特許手提信號燈、諸鐵物及
木具椅子鐵脚腰掛鐵道用金物
一切製造販賣

京城府漢江通

鐵工業 田川常治郎

電話六二八番

京城本町一丁目

江戸川

電話一四六番

京城錦路通一丁目

東洋生命保險株式會社

電話六五一番

京平通一丁目

三井洋服店

電話三五八番

京城府漢江通十三番地

大和與次郎

京城府龍山(郵便局前)

大和社運送部

電話長四二〇番
振替京城一五六一

三菱合資會社朝鮮朝鮮炭礦代理店
英國サン火災保險會社代理店

泉商會

京城南大門通三丁目
電話四三九〇番

京城岡崎町

印醬油釀造元
都味贈製造元
萬漬物問屋
嶋屋本店

電話二三三〇番

京城壽町三番地

松翠樓

電話五七七番

京城府龍山

學校機黑
板製造業
其他洋家
具一式

松村工作所

電話七一三番
振替京城一二七八番

京城黃金町一丁目

寫眞業 岩田寫眞館

電話四五三番

館主 岩田鼎

京城南米倉町

乾食料品卸商
辻本嘉三郎

電話六七五番
六四一番

宮内省御用
最上清酒
創業百有二年



印ンカルマ
元青造釀
木商田從
店店會社
府府會社酒の理到城京江店特

京城太平通二丁目電話二四五番
日本醬油株式會社出張所



京城明治町二丁目
奧田商店羅紗部出張所
電話一八九一番

仁川本町二丁目
奧田商店羅紗部
電話五二番
振替京城五五五番

大連市大山通二丁目
奧田商店羅紗部出張所
電話三三八番

生糸蠶繭蠶種屑物
其他朝鮮物產賣買

京城龍山漢江通十一番地

朝鮮繭絲商行

行主 鳥飼武次郎
電話四四二五番